

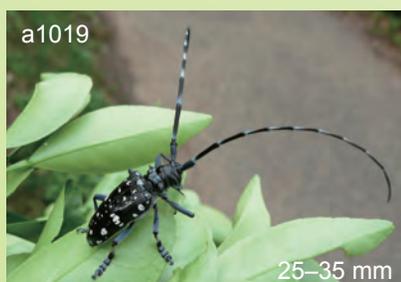
いのち  
生命のにぎわい調査団  
生命のにぎわい通信

発行：千葉県環境生活部自然保護課  
千葉県生物多様性センター  
〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2  
(千葉県立中央博物館内)  
TEL 043-265-3601 FAX 043-265-3615  
URL <https://www.bdcchiba.jp/monitor/>  
E-mail [monitor@bdcchiba.jp](mailto:monitor@bdcchiba.jp)

第59号：発行 令和3年(2021年)7月

## 千葉県で見られるカミキリムシ

日本には800種を超えるカミキリムシがいます。カミキリムシは種により色彩、模様や形態などが大きく異なっており、中には光沢のある美麗種や他の昆虫に擬態する種がいるなど、非常に多様な昆虫です。今号では千葉県内でよく見られる9種のカミキリムシを紹介します。写真左上は撮影者の団員番号、写真右下の数値は体長(触角を除く)です。



ゴマダラカミキリ

6-8月にヤナギ類や柑橘類、バラ科などの広葉樹で見られます。雑木林から街中の並木がまばらな場所など、幅広い環境で見られる普通種です。



キボシカミキリ

7-12月にクワ科植物で見られます。平地から山地にかけて見られる普通種です。前翅には大小の黄色紋が散らばりますが、地域や個体によって変異があります。



クワカミキリ

6-10月にクリやブナ、ケヤキなどの広葉樹で見られます。背面は灰黄褐色をしており、前翅前方にこぶ状の小さな隆起が密にあるのが特徴です。



ナガゴマフカミキリ

4-9月に広葉樹の立ち枯れや伐採木、シイタケのほだ木などで見られます。前翅の中央付近には淡色の帯があり、その帯の前後にはいくつかの黒色点があります。



ミドリカミキリ

クリやウツギ類の花粉を食べる他、シイタケのほだ木にも飛来します。体が細長く、金属光沢のある緑色から赤銅色をしています。平地から山地で見られます。



ベニカミキリ

4-6月にアカメガシワやクリの花、竹林の枯れたタケや伐採されたタケの上で見られ、タケに産卵します。成虫は手でつかむと刺激臭を放ちます。



キイロトラカミキリ

5-8月にクリやリョウブなどの花、広葉樹の倒木や伐採木に集まります。平地から山地にかけて見られる普通種です。前翅に見られる黒色紋は個体差が大きいです。



トラカミキリ

7-9月にクワの幹で見られます。主にクワ畑などの人工的な環境を好みます。全体的に黄褐色をしており、有毒のスズメバチ類に擬態していると考えられています。



ラミーカミキリ(外来種)

中国原産。長崎に侵入した後、関東にまで分布を拡大。5-7月にカラムシやムクゲなどの葉上で見られます。在来種との競合や植物の食害が懸念されています。

参考文献

鈴木知之(2009).日本のカミキリムシハンドブック.文一総合出版.  
梶真史(2013).日本の昆虫1400②トンボ・コウチュウ・ハチ.文一総合出版.

最新の生物多様性に関する情報、各種研修会の情報は、当センターと調査団のホームページをご覧ください  
「調査団」<https://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html>と「生物多様性センター」<https://www.bdcchiba.jp/>

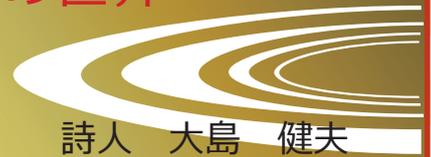
# 古典文学と里山の生き物たちの世界



## 第十三回 ネムノキ

*Albizia julibrissin* マメ目マメ科

詩人 大島 健夫



日本の古典文学には、様々な生き物たちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生き物とかかわり、その姿に何をしていたのでしょうか。この連載では、生物多様性センターに勤務している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

夏、日当たりの良いところにまるで花火のような花を咲かせるネムノキ。その名前は、夜になると葉が閉じる「就眠運動」をすることに由来しています。昼間は葉を開いて光合成をし、夜になると閉じてしまうのですが、昔から、この夜に葉が閉じている様子を男女が抱き合っている様子になぞらえて「合飲木」という字が当てられています。『万葉集』には紀女郎という女性の詠んだ、こんな歌が収録されています。

昼は咲き 夜は恋ひ寝ぬる合飲木花 我のみ見めや 戯奴さへに見よ

昼の間は咲き、夜になると恋寝るネムの花を、私ひとりで見ているのもなんだからあなたも一緒にどうぞ、と誘っている歌です。紀女郎がこんな歌でつづいている男こそ、のちに三十六歌仙のひとりに数えられる大伴家持でした。家持は紀女郎より十数歳、年下であったと考えられています。紀女郎はこの時、このような歌も添えて送っています。

戯奴がため 我が手もすまに春の野に 抜ける茅花ぞ 食して肥えませ

あなたのためにせさせと茅の花（チガヤ。若い花は食べられる）をとってきてやったから、いっぱい食べて太れ、と。どこまで本気なのでしょう。そして、対する大伴家持の返歌も、万葉集に収録されています。

我妹子が 形見の合飲木は花のみに 咲きてけだしく 実にならじかも

あなたがくれたネムノキは、花は咲くけど実はならないでしょうよ、というのです。話せば長くなりますが、紀女郎には夫も子供もおり、家持もこの頃妻を迎えたばかりでした。ちなみに家持、茅の花の歌の方にはこんな返歌を送っています。

吾が君に 戯奴は恋ふらし給りたる 茅花を喫めど いや瘦せにやす

私はとにかくあなたに恋をしてしまっていて、もらった茅花を食べてもどんどん痩せてしまう……。当時の感覚だと親子ほど年の違うふたりは、押したり引いたりしながら、真剣なような遊びのような、おかしいようなシビアなようなやりとりを繰り返しています。



画 齋藤倫瑠

### <これからの季節に観察できる生きもの>

○調査対象種：セミの仲間、ヒガシニホントカゲ、カワセミ、サワガニ、キンランなど

○調査対象種以外

\* 渡りのシギ・チドリ類、サシバなどの猛禽類

\* 各種昆虫、両生類、爬虫類など

\* 希少生物（生息地・生息数が減少している生物）、外来生物の報告も受け付けています。

調査対象種以外は種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。

### <令和2年度 生命のにぎわい写真コンテスト結果報告>

団員の皆様の応募作品 31 点から最優秀賞と優秀賞が決定しました。



【最優秀賞】 戸崎 安司  
「吸蜜（オオスカシバ）」



【優秀賞】 千葉 公  
「ヒレンジャクの小競り合い」

今年度も「にぎわい写真コンテスト」を開催する予定です。ぜひ、生き物の『生命のにぎわい』を写真に収め、コンテストへのご応募をお願いします。